

平成27年度 市政はこだて 掲載記事について

1. 掲載の担当月について

平成25年度より、委員には、市政はこだて裏表紙のコラムを担当していただいております。掲載は北海道新幹線が開業するまでの平成28年4月号まで継続される予定である。委員にはそれぞれの視点から、函館市の観光のあり方や北海道新幹線開業について執筆いただいております。

平成26年度からのテーマは、「北海道新幹線がやってくる。」となっております。今年度担当した5回の掲載のうち、観光部で3回を担当、残りの2回を奥平座長、内沢委員に担当していただきました。

平成27年度については、当市企画部との協議の結果、テーマは変更せず、委員分として、4回（平成27年5月、7月、11月、平成28年1月）に渡り記事を担当することとなった。記事を担当する順番については、第2回会議で決定したとおり、座長以下50音順となったことから、平成27年度は尾山委員から順に担当していただく。

なお、平成28年4月以降、記事の掲載を継続するかどうかは現時点では未定であるが、仮に継続して担当する場合は、未だ記事を担当していない残りの委員4名（須田委員、畠山委員、安井委員、渡邊委員の順）で対応することとしたい。

連載概要は以下のとおり。

○連載概要

①タイトル：平成27年度テーマ「北海道新幹線がやってくる。」

②サブタイトル：記事の内容に応じて各自で決めること

【記事の一例】

- ・新幹線開業による様々なプラス効果とマイナス効果
- ・個別の観光資源の効果
- ・それぞれの立場から取り組むべきこと
- ・市民が開業を盛り上げるよう、機運を高める内容 など

③記事の枠：タイトルを除き、委員氏名1行、本文32字×6行（192字）の計7行。

④掲載場所：市政はこだて裏表紙帯枠

⑤担当月：以下のとおり

月	H27.4月号	5月号	6月号	7月号	8月号	9月号
担当部署	企画部	アドバイザー	企画部	アドバイザー	市民憲章	企画部
担当	政策推進課	尾山委員	PT	金道委員		PT

月	10月号	11月号	12月号	1月号	2月号	3月号
担当部署	企画部	アドバイザー	企画部	アドバイザー	市民憲章	企画部
担当	PT	木村委員	PT	佐藤委員		未定

⑥原稿作成順番



2. 平成26年度に掲載した記事について

○市政はこだて5月号記事 「北海道新幹線開業を見据えて」 【観光部】

観光は函館の主要な産業の一つであり、北海道新幹線の開業により、多くの観光客が足を運んでくれることが期待されます。市では、このたび、今後10年間の函館観光が目指す方向性を定めた「第4次函館市観光基本計画」を策定しました。新幹線時代の到来にあたり、経済効果の拡大に向けた宿泊数の増加やリピーター化につなげるための満足度の向上といった目標を掲げ、函館観光の活性化に取り組んでまいります。

○市政はこだて7月号記事 「観光アドバイザー会議」 【観光部】

市では、新たな観光基本計画を策定し、北海道新幹線の開業を見据えて、新たな時代に対応した各種観光振興策を実施しておりますが、こうした施策に対し、観光に関連した団体や学識経験者から広く提言をいただくため「観光アドバイザー会議」を設置しています。さまざまな立場で観光に携わっている方々のアドバイスを今後の施策等の参考とするとともに、観光基本計画の見直しを行ってまいります。

○市政はこだて9月号記事 「北海道新幹線開業による函館観光への影響」 【観光部】

新幹線開業は、函館の観光に大きな恩恵をもたらすことが期待されています。移動時間の短縮によって、主に北関東や南東北などからの新たな観光客の掘り起こしと、これまで航空利用をためらっていた方が新幹線を利用して訪れるということも見込まれます。そして、一度に多くの人に乗れるという新幹線の特性を生かして、修学旅行や大型団体旅行、大型コンベンション誘致の可能性も広がります。こうした効果を最大限に生かすためにも、市民一人ひとりの「おもてなしの心」を育むことが必要です。

○市政はこだて11月号記事 「新幹線開業とおもてなし」 【奥平座長】

2016年3月(予定)に北海道新幹線が新函館北斗駅まで開業します。新幹線の新駅は北斗市、車両基地は七飯町に建設中です。新幹線が函館市を1mmも通らないせいでしょうか、市民の間で歓迎ムードが今ひとつ盛り上がっていないように思います。50年来の悲願であった新幹線の開業です。新幹線を大いに歓迎しましょう！そういう熱い思いこそが、本州からの観光で来られた方々への心からのおもてなしにつながっていきます。

○市政はこだて2月号記事 「輝きつづける街へ！」 【内沢委員】

「地域ブランド調査2014」で“魅力度”全国No.1に輝いた函館市。日々、様々なメディアで情報発信される「北海道新幹線」効果が起爆剤となり、函館市はさらに魅力的な都市と認識され、ビジネスマンや観光客がたくさん訪れることでしょう。北海道新幹線の開通は、交流人口増加はもとより、通勤・通学圏の拡充も予想され、人口減少の歯止め役となることも期待されます。“住みやすい街”でもNo.1を獲得するために、函館の夜景とともにいつまでも輝く街をみんなの力でつくり上げましょう。